

イノベーションに情熱を。  
ひとに思いやりを。



# 株主通信

Vol.17

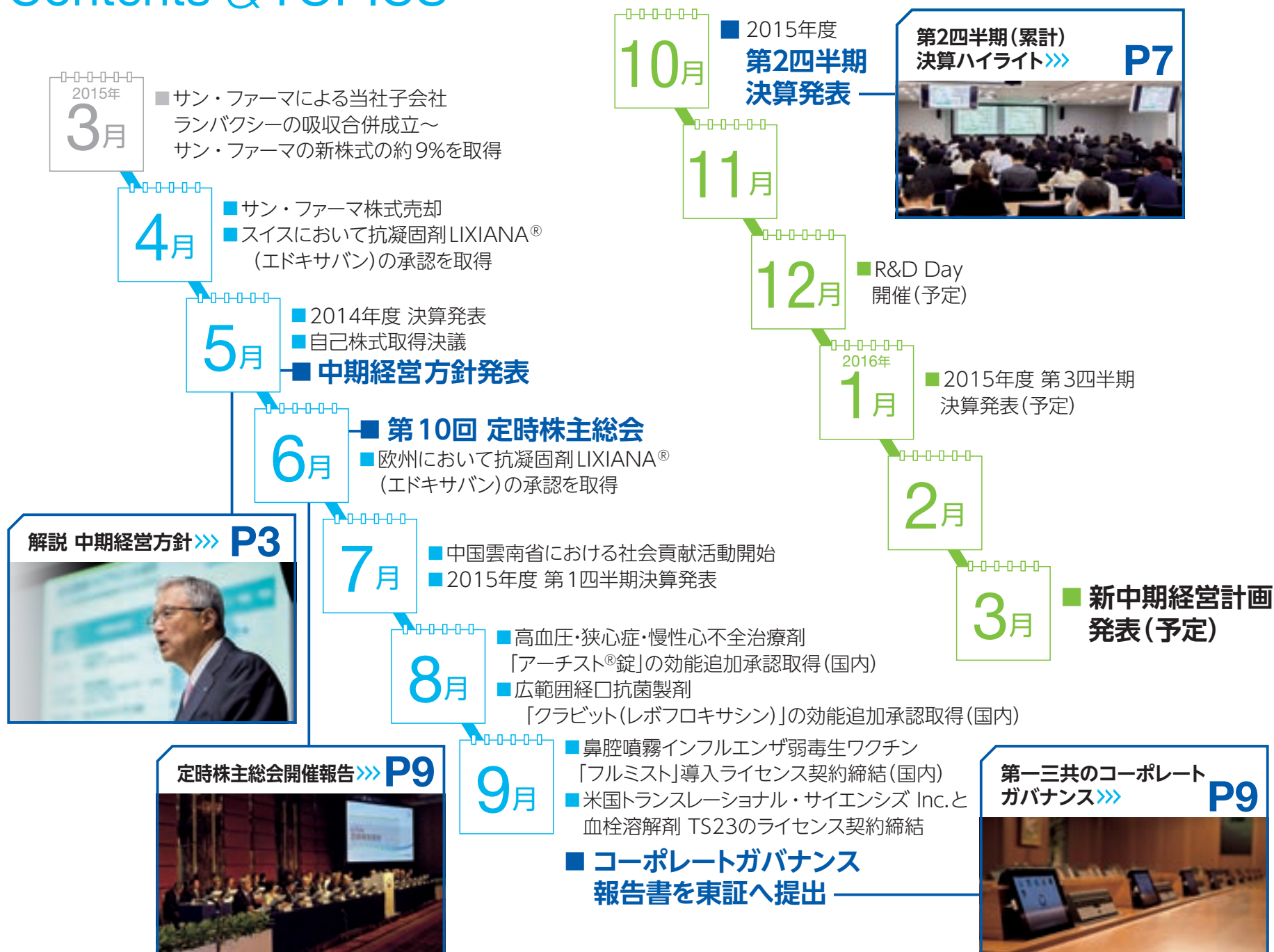
2015年度  
第2四半期決算号

2015年4月1日 ~ 2015年9月30日

第一三共株式会社

証券コード 4568

# Contents & TOPICS



## 株主の皆様へ

株主の皆様には日頃より当社の経営に温かいご支援、ご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献することを企業理念に掲げております。

今上半期(2015年4月~9月)は、日本において抗潰瘍剤ネキシウム、アルツハイマー型認知症治療剤メマリ、抗血小板剤エフィエント、抗凝固剤リクシアナ等の新製品群が伸長しました。米国では、オピオイド誘発性便秘薬モバンティックを新発売したことに加え、ルイトポルド社の貧血治療剤インジェクタファーを急速拡大させることができました。欧州では、スイス、英国、ドイツ、アイルランドでエドキサバンを製品名リクシアナとして新発売しました。また、エドキサバンは韓国でも承認を取得し、中国でも申請を完了しております。

研究開発においては、自社創製の神経障害性疼痛治療剤ミロガバリンのグローバルフェーズ3試験が順調に進捗していることに加え、血栓溶解剤に関する新たなシーズの獲得や新しいタイプのインフルエンザワクチン導入に関する契約締結等の進捗を得ることができました。

一方、インドの子会社であったランバクシーをサン・ファーマに吸収合併させ取得したサン・ファーマの株式は、本年4月に全株売却いたしました。この売却によって得た資金を活用して、5月から8月にかけて約500億円

分の自己株式取得を実施いたしました。今後の企業価値の継続的向上のための投資にも積極的に活用してまいります。

現在の屋台骨である高血圧症治療剤オルメサルタンは2016年秋から2017年にかけて日米欧主要国での特許切れを迎えます。当社グループにとっての最大の課題は、このパテントクリフをいかに乗り越え、持続的な成長を果たしていくかということです。これを成し遂げるため、本年5月に今後の経営の方向性を「新薬事業への集中・回帰」「日本・米国・中国への優先投資」「研究開発力強化」と決めました。

これを具現化するための新たな中期経営計画の検討を進めており、2016年3月までに策定し、皆様に報告させていただく予定です。グループを挙げてオルメサルタンのパテントクリフを乗り越えて持続的に成長していくシナリオをお示すと共に、利益創出力の向上、研究開発強化、ROE施策を含む株主価値向上を実現させる中期経営計画にしたいと考えております。

株主の皆様の引き続きのご支援をお願い申し上げます。

2015年11月

代表取締役社長 兼 CEO

中山 讓治



# 解説 中期経営方針

第一三共グループは、規模拡大による成長から、  
当社の強みを最大限に生かす筋肉質の成長に向けて経営方針の転換を決定しました。  
この新たな中期経営方針の概要をご説明いたします。



## グローバルハイブリッドビジネスの見直しと新たな中期経営方針

### 目指す会社像

世界の健康・医療に有効なSolutionを持続的に提供できる会社

#### 第3期中期経営計画の経営目標

- オルメサルタンのパテントクリフの克服
- 持続的成長の実現と収益性の改善
- 第一三共／ランバクシーを軸とする  
グループビジネスの深化と効果創出

#### 新たな経営方針

- オルメサルタンのパテントクリフの克服
- 持続的成長の実現と収益性の改善
- 新薬事業への集中・回帰 **POINT1**
- 日本・米国・中国への優先投資 **POINT2**
- 研究開発力強化 **POINT3**

当社はインドの子会社であったランバクシーを当社グループから切り離したことに伴い、新薬事業およびジェネリック事業をグローバルに展開することを目指した従来の「ハイブリッドビジネスモデル」から「新薬事業集中」へ、経営の方向を転換することとしました。

新たなスタートラインとして、中期経営方針を「新薬事業への集中・回帰」「日本・米国・中国への優先投資」「研究開発力強化」と定め、更なる企業価値向上に取り組みます。

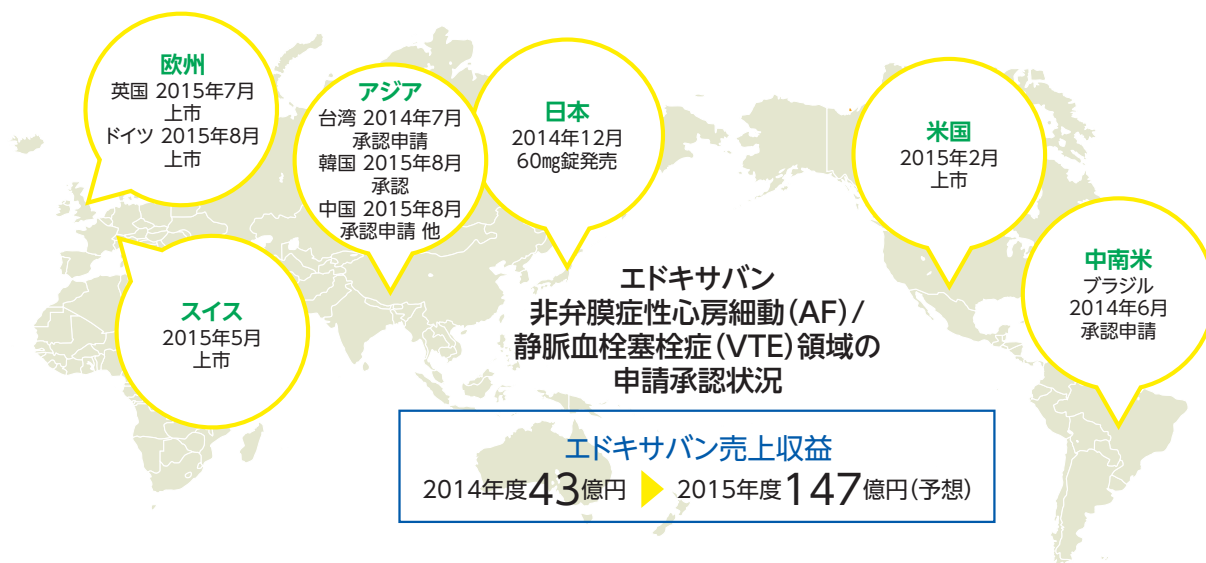


## オルメサルタンの パテントクリフ克服に向けて

高血圧症治療剤オルメサルタンは、現在、当社グループの売上の約3割を占める最主力のグローバル製品ですが、2016年秋以降に各地域で順次特許期間の満了を迎えます。このオルメサルタンのパテントクリフは当社が直面する最大の課題であり、グループを挙げて克服すべく取り組んでいます。自社創製の抗凝固剤エドキサバンのグローバル製品としての価値最大化、日本市場シェアNo.1に向けた新製品極大化、米国における新たな中核領域の確立に加え、選択と集中をキーワードに生産性の高い事業運営体制を構築するための低コスト体質を目指した取り組みも継続してまいります。

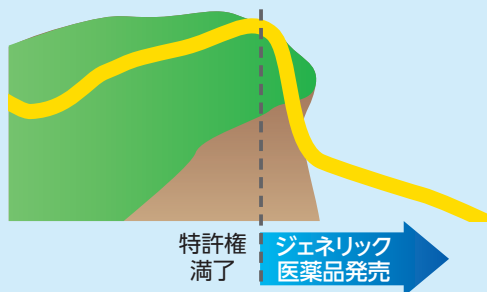
### パテントクリフ克服への取り組み

- **グローバル**  
エドキサバンの上市及び大型化
- **日本**  
新製品の極大化によるシェアNo.1の実現
  - エフィエント、リクシアナ、メモリー、ネキシウム、ランマーク、プラリア他
  - ラコサミド
- **米国**  
新製品の早期育成と中核領域の確立
  - モバンティック、CL-108
  - インジェクタファー
- **低コスト体質への継続的な取り組み**  
選択と集中



## パテントクリフって?

■ 特許権満了時の売上収益推移グラフ(イメージ)



日本語に直訳すると「特許の壁」。新薬に関する特許が切れると、低価格なジェネリック(後発医薬品)に急速にシェアを奪われ、売上が激減することを、崖から落ちるような形になる売上収益推移グラフになぞらえてパテントクリフと表現します。

### 製薬業界を取り巻く環境

製薬会社は、多様なニーズに応える薬を研究開発し、必要とする患者様に届ける社会的責任を背負っています。新薬創出の成功確率は3万分の1ともいわれ、また、巨額の研究開発費用を必要とするなど道のりは険しいものですが、この社会的責任を果たすためにも、パテントクリフを乗り越えて持続的に成長していく主力製品のスムーズな交代、新薬開発期間の短縮化と開発パイプラインの充実に努めなければなりません。

**POINT1 新薬事業への集中・回帰**

高コレステロール血症治療剤プラバスタチン、合成抗菌剤レボフロキサシンや、オルメサルタンといった大型製品を自社で生み出し、大きく育ててきた第一三共のDNAの中には、新薬事業への強みが受け継がれています。これまで以上に新薬事業へ経営資源を集中的に投入することで開発パイプラインの充実を図り、次代の成長を担う製品開発を進め、強固な営業体制で市場投入してまいります。

**自社の強味である新薬事業をさらに強化することで成長する**

- 新薬創出のDNA
- メガファーマと互角に渡り合える営業力

**POINT2 日本・米国・中国への優先投資**

日 本	
■ 強いブランド力・プレゼンス	■ 成長期にある充実した製品ポートフォリオ
■ 広範な事業分野に対応可能な事業基盤	■ 医療現場からの厚い信頼
<b>No.1製薬企業</b>	

ホームグラウンドの日本では、グローバル戦略としての新薬事業に加え、地域戦略としてジェネリック事業・OTC事業・ワクチン事業も含めたビジネス展開を行います。新製品の極大化による売上シェアの拡大のみならず、医療現場からの信頼や社会的責任などの企業評価においてもNo.1の製薬企業を目指します。

米 国
■ 世界最大の市場規模
■ グローバルスタンダードセラピーの発信地
■ 確立された事業基盤
<b>中核領域の確立による成長</b>

エドキサバンの価値を早期に最大化するとともに、疼痛領域や貧血治療剤など当社の強みとなる新たな領域の確立を目指します。

中 国
■ 世界第2位の市場規模と新薬市場の高い成長性
■ 確立された事業基盤、地理的アドバンテージ
<b>事業基盤拡大 10億ドルビジネス</b>

中間所得層の増加により成長する新薬市場で、既に確立している自社の開発・生産・営業組織を活かして事業基盤を拡大します。

**サン・ファーマ  
株式売却資金  
の活用**

2015年3月、サン・ファーマ/ランバクシーの合併手続きの完了により、当社は株式交換によりサン・ファーマ株式を約2億1,500万株取得しましたが、4月に3,784億円で全株の売却を完了しました。

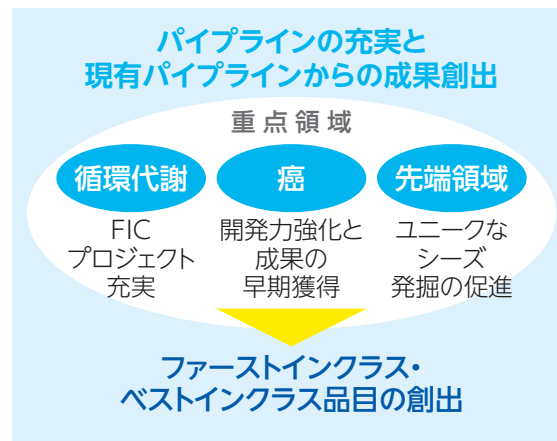
この売却資金は、新たな経営の方向性に沿って、研究開発力強化・加速化や新規パイプラインの獲得のために重点的に投資するとともに、株主の皆様への還元策の充実を図ることとし、2015年度上半期には約500億円分(約2,065万株)の自己株式の取得を実施しました。

中長期的な成長戦略への投資と合わせ、機動的な株主還元について今後も検討してまいります。

### POINT3 研究開発力強化

3つの重点領域のうち循環代謝領域は当社の得意分野です。今後もファーストインクラス(FIC)品目の充実を図るべく、外部資源の導入も含めて取り組みます。フェーズ1品目が充実しつつある癌領域では、有望な品目の開発を強力に推進し、後期開発品目の充実に努めます。先端領域では、国内外のアカデミアとの共同研究開発を進めていますが、その中にはカリフォルニア大学サンフランシスコ校神経変性疾患研究所所長でノーベル賞受賞者のプルシ

ナー博士との共同研究も含まれています。その他、再生医療・細胞治療や次世代バイオ医薬品にも引き続き積極的に取り組みます。



### 2016年 3月 新中期経営計画発表 (予定)

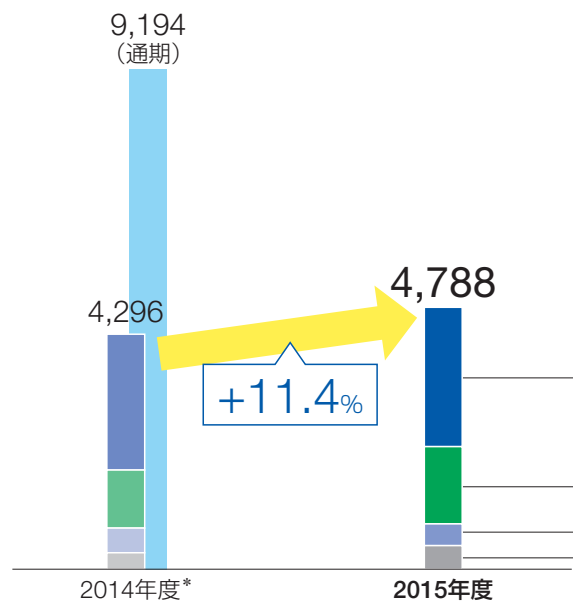
この中期経営方針を基に、現在、対象期間を2016年度～2020年度の5年間とした新たな中期経営計画を策定しております。2016年3月を目処に発表する予定としておりますので、ご期待ください。

### ■主要研究開発パイプライン (2015年10月現在)

	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
循環代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>DS-1040 (急性期虚血性脳血管障害)</li> <li>DS-2330(高リン酸血症)</li> <li>DS-8312(高TG血症)</li> <li>DS-9231/TS23(血栓症)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CS-3150 (高血圧症)</li> <li>CS-3150 (糖尿病性腎症)</li> <li>DS-8500 (糖尿病)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスグレル (虚血性脳血管障害)</li> <li>プラスグレル (鎌状赤血球)</li> </ul>
癌	<ul style="list-style-type: none"> <li>U3-1565</li> <li>DS-8273</li> <li>PLX9486</li> <li>DS-3032</li> <li>PLX8394</li> <li>DS-8201</li> <li>PLX7486</li> <li>DS-6051</li> <li>DS-8895</li> <li>DS-5573</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パトリツマブ</li> <li>ベキシダルチニブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チバンチニブ (肝細胞癌)</li> <li>ベムラフェニブ (メラノーマ術後補助療法)</li> <li>デノスマブ (乳癌術後補助療法)</li> <li>キザルチニブ (急性骨髄性白血病)</li> <li>ニモツズマブ (胃癌)</li> <li>ベキシダルチニブ (腱滑膜巨細胞腫)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>DS-1093 (腎性貧血)</li> <li>DS-3801 (慢性便秘)</li> <li>DS-1971 (慢性疼痛)</li> <li>DS-1501 (骨粗鬆症)</li> <li>DS-7080 (加齢黄斑変性症)</li> <li>VN-0102/JVC-001 (MMRワクチン)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SUN13837 (脊髄損傷)</li> <li>ラニナミビル (抗インフルエンザ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミロガバリン (線維筋痛症)</li> <li>ヒドロモルフォン (癌性疼痛)</li> <li>ミロガバリン (糖尿病性末梢神経障害性疼痛)</li> <li>CHS-0214 (関節リウマチ)</li> <li>ミロガバリン (帯状疱疹後神経痛)</li> <li>CL-108 (急性疼痛)</li> <li>デノスマブ (関節リウマチ)</li> <li>VN-0105 (5種混合ワクチン)</li> <li>フルミスト (鼻腔噴霧インフルエンザワクチン)</li> </ul>

# 第2四半期(累計)決算ハイライト

## 売上収益 (単位:億円)



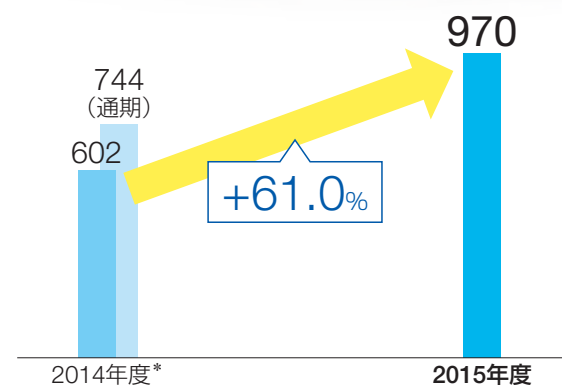
日本・米国・アジア・中南米において主力品の売上が増えたことに加えて、円安という為替の動きが海外売上からの収益を底上げしました。

為替レート	2014年度 第2四半期	2015年度 第2四半期
USD/円	103.05	121.80
EUR/円	138.91	135.07

## 主要ビジネスユニット 売上推移 (単位:億円)

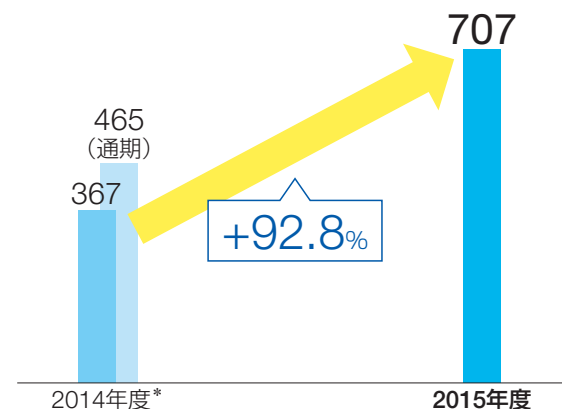
	2014年度 第2四半期	2015年度 第2四半期
<b>日本</b>		
日本カンパニー+ワクチン事業	2,226	2,278
オルメテック(高血圧症治療剤)	378	362
ネキシウム(抗潰瘍剤)	321	387
ロキソニン(消炎鎮痛剤)	254	244
メマリ(アルツハイマー型認知症治療剤)	168	205
リクシアナ(抗凝固剤)	2	54
エフィエント(抗血小板剤)	3	18
第一三共ヘルスケア	227	246
<b>米国</b>		
第一三共 Inc.	781	934
オルメサルタン(高血圧症治療剤)	472	571
ウェルコール(高コレステロール血症治療剤/2型糖尿病治療剤)	218	242
エフィエント(抗血小板剤)	85	106
ルイトボルド	268	464
ヴェノファー(貧血治療剤)	142	160
インジェクタファー(貧血治療剤)	29	79
<b>欧州</b>		
第一三共ヨーロッパGmbH	445	392
オルメサルタン(高血圧症治療剤)	354	302
エフィエント(抗血小板剤)	23	22
<b>その他</b>		
アジア/中南米 (ASCA)	300	427

## 営業利益 (単位:億円)



売上総利益が増えたことに加えて、販売費・一般管理費が減少したこと等により、増益となりました。

## 当期利益(親会社帰属) (単位:億円)



サン・ファーマ株式を売却した際の手数料等で金融費用が増加しましたが、増益となりました。



## 2015年度 連結業績予想(10月公表)

	2015年度	2014年度比*
売上収益	9,800億円	(6.6%増)
営業利益	1,200億円	(61.2%増)
当期利益(親会社帰属)	750億円	(61.4%増)

- 売上収益は、日本でネキシウムが好調な他、米国でウェルコールやライトポルドの貧血治療薬が好調なことから、7月の上方修正に続き、10月にさらに300億円上方修正し、9,800億円を見込んでおります。
- 営業利益および当期利益(親会社帰属)は、米国子会社での営業体制変革に伴う費用の増加が見込まれるため、7月に上方修正した予想を据え置きます。特殊要因による支出の多かった前期に比べると増益となる予想です。

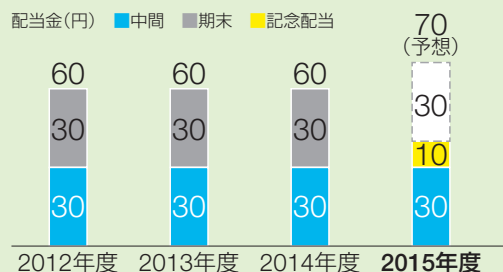
\* 2014年度実績は継続事業のみの金額に組替えて表示・比較しております。

## 配当について

当社は2015年9月28日に創立10周年を迎えました。これを記念し、株主の皆様の日頃のご支援に感謝の意を表するため、今回の中間配当は、1株当たり30円の普通配当に加え10円の記念配当(合計1株当たり40円)とさせていただきます。12月1日よりお支払いします。

また、期末配当につきましては、1株当たり30円を予定しており、年間配当は1株当たり70円となる見込みです。

■ 1株当たり年間配当金の推移

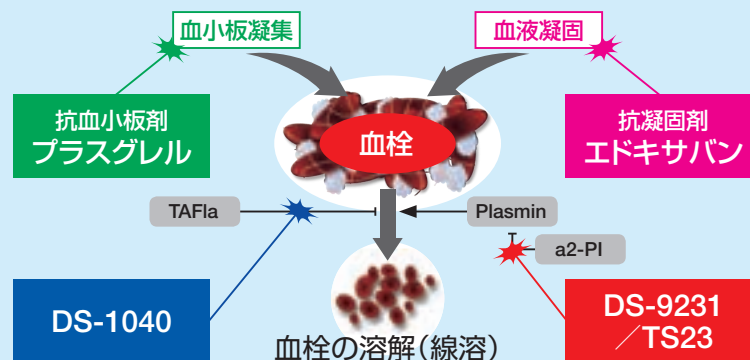


## NEWS DS-9231 / TS23の導入

2015年9月、米国トランスレーショナル・サイエンシズInc.より血栓溶解の働きを持つ抗体医薬を導入しました。

第一三共グループは血栓症領域において、プラスグレル(国内製品名:エフィエント)とエドキサバン(国内製品名:リクシアナ)を有しており、この2つの薬剤は、血小板凝集や血液凝固といった血栓ができる過程に作用する薬として広く使われています。一方、急性期の血栓症治療では、血管内に詰まってしまった血栓を急速に溶かす薬が必要とされる場面があります。現在は、血栓溶解に使える薬剤の種類は少なく、画期的な新薬が待ち望まれています。

当社は、血栓を溶解する線溶促進剤としてDS-1040に加えてDS-9231 / TS23の開発を進め、抗血栓薬のポートフォリオを強化してまいります。



# 定時株主総会 開催報告

## 第一三共の取り組み

2015年6月22日（月曜日）午前10時から約2時間にわたり開催された第10回定時株主総会には、約2,600名の株主様にご来場をいただきました。事業報告に続く質疑応答の場面では、「社外取締役の選任理由と独立性」「癌免疫療法への取り組み」「臨床データの医師・患者様への情報公開」等について10名の株主様からご質問をいただき、議長および担当役員からご回答申し上げました。

なお、本総会で選任された取締役10名（うち社外取締役4名）および社内監査役2名と昨年選任された社外監査役2名が、現在当社の経営に従事しております。



# 第一三共の コーポレートガバナンス

## コーポレートガバナンスを取り巻く環境

日本の「稼ぐ力」を高めるためにはコーポレートガバナンスの強化が重要とされ、近年、企業経営の在り方への関心が高まっています。本年6月には株主の権利、取締役会の責務、情報開示など企業が守るべき行動原則を示した「コーポレートガバナンス・コード」が適用開始となりました。

### コーポレートガバナンス・コード

- |        |                                                       |
|--------|-------------------------------------------------------|
| 基本原則 1 | <b>株主の権利・平等性の確保</b><br>株主の権利が実質的に確保されるよう整備            |
| 基本原則 2 | <b>株主以外のステークホルダーとの適切な協働</b><br>さまざまなステークホルダーの権利・立場を尊重 |
| 基本原則 3 | <b>適切な情報開示と透明性の確保</b><br>制度開示以外の情報提供も主体的に             |
| 基本原則 4 | <b>取締役会等の責務</b><br>持続的成長、企業価値向上を促し、資本効率を改善            |
| 基本原則 5 | <b>株主との対話</b><br>建設的な対話、バランスのとれた理解                    |

## 第一三共の取り組み

当社は、従来より複数の独立社外取締役・独立社外監査役を選任し、任意の組織として指名委員会・報酬委員会を設置するなど経営と執行の監督機能強化・透明性確保に取り組んでおりますが、コーポレートガバナンス・コードの主旨を踏まえ、企業価値向上に向けたガバナンス体制をさらに整備してまいります。

### POINT1

取締役の任期は1年  
10名中4名は社外取締役

経営責任の明確化  
監督機能の強化

### POINT2

社外取締役のみで構成する  
指名委員会、報酬委員会を  
設置

経営の透明性確保

### POINT3

当社独自の  
独立性判断基準を制定

コーポレートガバナンスの  
一層の強化

なお、当社の実施状況を、コーポレートガバナンス報告書として本年9月30日に東京証券取引所へ提出いたしました。



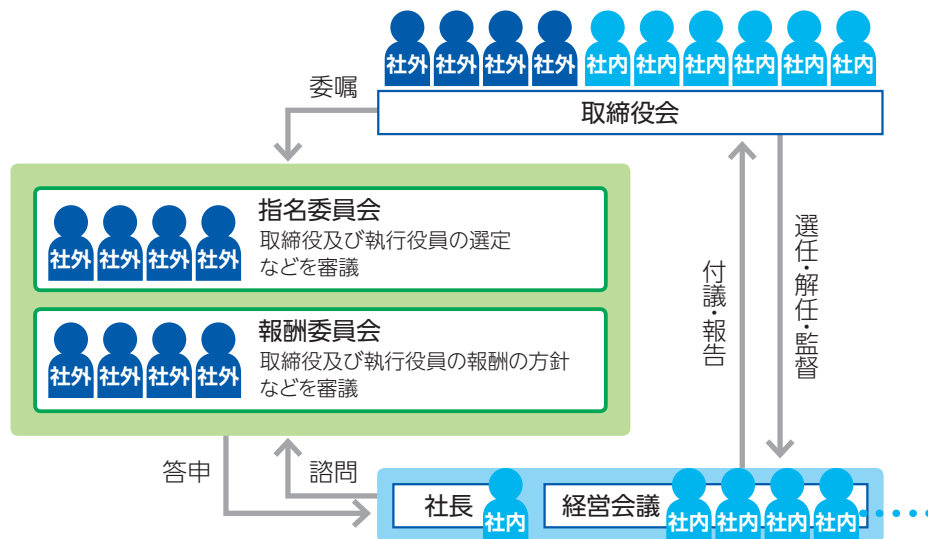
第一三共 コーポレートガバナンス

検索

TOP>会社概要>CSR基盤>コーポレートガバナンス



社外取締役		社内取締役			社内監査役	社外監査役
社外取締役 福井 次矢	社外取締役 足立 直樹	取締役 専務執行役員 戦略本部長 齋 寿明	取締役 専務執行役員 ワクチン事業管掌 荻田 健	取締役 専務執行役員 国内外営業管掌 眞鍋 淳	常勤監査役 渡辺 一幸	社外監査役 片桐 裕
社外取締役 戸田 博史	社外取締役 宇治 則孝	代表取締役 副社長執行役員 管理本部長 廣川 和憲	代表取締役社長 兼CEO 社長執行役員 中山 讓治	代表取締役 副社長執行役員 総務・人事本部長 佐藤 雄紀	常勤監査役 春山 英幸	社外監査役 木村 明子



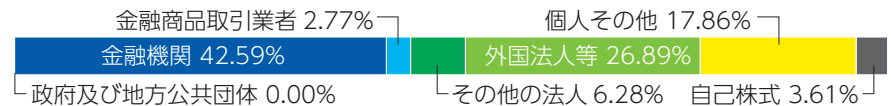
## 会社概要

商号	第一三共株式会社 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)
資本金	500億円
事業内容	医薬品等の研究、開発、製造、販売及び輸出入
従業員数	16,377名(連結)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (連絡先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)

## 株式情報

発行済株式総数	709,011,343株
株主数	113,161名

## 所有者別株式分布状況



## WEBサイトのご案内

第一三共 検索

「株主・投資家の皆様向け経営メッセージ」の更新を12月2日(水)に予定しております。ぜひご覧ください。



なぜなの？

## 株主の皆様の声を反映させます!!

### 株主様アンケートご協力をお願い

今後の株主通信編集やIR活動の参考にさせていただきたく、アンケートを実施いたします。当社に対するご要望をぜひお寄せください。

受付期間:2015年12月1日(火)~2016年1月15日(金)



### はがきから

同封のはがきにご回答いただき、ご返送ください。  
**切手は不要です。**

### パソコン・スマートフォン・タブレットから

当社ホームページ「株主通信」ページの「株主様アンケート」をクリックいただきご回答ください。



第一三共 株主通信 検索

TOP>株主・投資家の皆様へ  
>株主通信



右のQRコードから直接アクセス  
できます。



アンケートは  
ここをクリック!

前号で実施させていただきましたアンケートの一部をご紹介します。ご意見をありがとうございました。

- 難病で苦しんでいる人たちの新薬を一つでも立ち上げてください。  
▶ 新薬事業そして研究開発力の強化にさらに注力してまいります。(3頁 中期経営方針をご参照ください)
- 株主還元について引き続き努力をしてください。  
▶ 2015年度上半期に実施した自己株式の取得と株主還元方針について5頁にご紹介しました。
- 文章の説明がわかりにくい。  
▶ グラフ・表を活用した構成としましたが、今回の株主通信はいかがでしたでしょうか。分かりやすい情報発信に努めてまいりますので、ぜひご感想をお聞かせください。